

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18

吉原評判都登里

二

特別
ヲ 6
3041
2

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18
TAMURA JAPAN

門9巻6
葉3041
巻2-2



栞文

望解式下月左側扉甲原内

齊治

いづりこおしそ見るありて白紙
黄くく字志門志くやめく
徳りけりく之信く中并能るく是
抄しおり一紙一

毎甲辰月

梅久

花鳥

けりくこ一伴あさうり山して琴之味
せんもちうけいふう海みちの雲を
よー字あつふうー縁さ断あり
はあなをちあつていふれはつてさみく

おるー四

綿本

素葉

けりくこ一伴あさうり山して琴之味
せんもちうけいふう海みちの雲を
よー字あつふうー縁さ断あり
はあなをちあつていふれはつてさみく

おるー四

羅波

兼持の

けりくこ一伴あさうり山して琴之味

くぐりぞん所を——夜更の舟也——
を舟の窓用紙に取小字書るとしとて
わろひのむの白白といはれたのこけ
の——て窓紙のまら紙を窓紙に
替へておろす所——也目小字——
の——ては八じちりそ取もまかへ
し——も紙の紙に取小字——
皮とわねをわ——紙の小字の

づりそは紙のこけのこけ
のこけのこけのこけ

舟橋

きりきり
清つひ

けりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり

あつてはとのおもひなきは物な古なり
——

妻母

玉座門

あつか

いふく二件人うらうらうと
あつかいなきやふ——てうとはれ
はるはる小多きまうみ自然と復
あひを所福まの相わり較あのみふ

らとせまらぬのぬゆ——うらうら
あ——の友目ふま——まうら
わをま——うらうら件利——

ま母

おる

ま母

あつてはとのおもひなきは物な古なり
——

酒も守り一るもほく一み保一
信わたりてある庭とち切ふさうしあを致
ひ一守り一好くもう一子く
吉ふあしほく一

つらふや西

松風

ふりま

はあしこちうれて笑一く教くせら

ゆくみは中北移ひもう一ひく一
うま一あう一室とま一て附反
うま一あう一子ああとち切ふさうしあを致
す家一あう一あは流流の頃あせ中ふし
つくと能うあをふ一うま一あを致
あうあはひもあ

松風

あ田を内

ふりま

いさゝか二件為内中して字を以て強
のそなわがー一理もつうく足らぬともの
始まらぬなりゆゑにゆゑに字を以て乃
もたれぬと云ふは、**たれぬ**と云ふは、
面白くおもふもよし、**たれぬ**と云ふは、
のそなわがー一理もつうく足らぬともの

かたがひ

養老

いさゝか二件為内中して字を以て強
のそなわがー一理もつうく足らぬともの
始まらぬなりゆゑにゆゑに字を以て乃
もたれぬと云ふは、**たれぬ**と云ふは、
面白くおもふもよし、**たれぬ**と云ふは、
のそなわがー一理もつうく足らぬともの

綿本

こらあや四

きん山

けおの面紙を
しつとまらきりあり
面白く九んハ
けきせん者ハ

あつた

梅えん

うん代

けおの面紙を
しつとまらきりあり
面白く九んハ
けきせん者ハ

角所ち剣台屋内

梅えん

ちやえん

お出くしやうおめがうーくーんおうー
うーうーうーうーうーうーうーうー
うーうーうーうーうーうーうーうー

うーうーうー

うーうーうー

うーうーうーうーうーうーうーうー
うーうーうーうーうーうーうーうー
うーうーうーうーうーうーうーうー

うーうーうーうーうーうーうーうー
うーうーうーうーうーうーうーうー
うーうーうーうーうーうーうーうー

うーうーうー

うーうーうー

うーうーうーうーうーうーうーうー
うーうーうーうーうーうーうーうー
うーうーうーうーうーうーうーうー
うーうーうーうーうーうーうーうー
うーうーうーうーうーうーうーうー
うーうーうーうーうーうーうーうー
うーうーうーうーうーうーうーうー

春風

春風のそよ

ちやんを

いよしたたきやうふーてふを春風
 憐このあつらもさるふらふらうの友
 之ほももたよ〜ほももん〜もにほひ
 おり〜ほ〜ちらほの〜ら〜也〜也
 よもあく回らま〜は〜

春久

春久のそよ

ちやん

いよしたたきやうふーてふを春風
 憐このあつらもさるふらふらうの友
 之ほももたよ〜ほももん〜もにほひ
 おり〜ほ〜ちらほの〜ら〜也〜也
 よもあく回らま〜は〜

春久

春久のそよ

ちやん

けあつていざ早き事く〜く〜く〜く〜
う〜てあなをよちおみち〜く〜く〜く〜
せんもろくもせぬちておひもあらし

角町左側角まき牛や内

富

夕

けあつていざ早き事く〜く〜く〜
う〜てあなをよちおみち〜く〜く〜
せんもろくもせぬちておひもあらし

まにまに〜しんれきほり〜やあなのお
ゆ〜あなをよちおひもあらし〜く〜
〜〜〜件おもろ〜

お名

西

右

けあつていざ早き事く〜く〜く〜
う〜てあなをよちおみち〜く〜く〜
せんもろくもせぬちておひもあらし

魚——うまきくしん——くくくくく
もてかきんたふハちる石がむじまめかこゆ
うこがまねたうんハまねあらしひんも
なまふ真もあなまふせしうまきん
けひの面白く日ふき——まひん
うまきく——

中まきく——

去風

あしん

けしうこまに付ま——くあまきん
あまきんもあまきんあまきんあまきん
うまきんもあまきんあまきんあまきん
うまきんあまきんあまきんあまきん
うまきんあまきんあまきんあまきん
うまきんあまきんあまきんあまきん

あまきん

去風

あまきん

けしうこまに付ま——くあまきん

むじりの人乃活とくろくひまの
さふりり茶湯もろく一倅を
くろくろくもろくもろくもろく
ばるもろくもろく

ませ城

中まき

まき浦

ひまろくひまろくひまろく

まろくと倅をろくろく
まろくと倅をろくろく
まろくと倅をろくろく
まろくと倅をろくろく
まろくと倅をろくろく
まろくと倅をろくろく
まろくと倅をろくろく
まろくと倅をろくろく

糸町を下月右例いせや

糸町

糸町

けりくせしれ甘まきいふあてはなほ
かこるし記す小足く終るも心く
ふ極有安に具と信し一候をとう
まふし控ひも面白く一候をうめい
をふしし神信らうとと

とりく内門

綿衣

高修

ははかひさき早と炎しくを志らさる
しくくくくくくくくくくくくく
みくれあふは控ひふう海の新と力
ししししししししししししし

せに内門

表風

巻簡

いさくくくくくくくくくくくくく

右切にぎくき二名の具小け之儀敷
寄の乃持持しを借し又を五重とかる
じげ長まうくのきまむじれつとせほ
きくまこと面白さふたうくさぬし
常く神志女くまふ海成(おろ)ハ
鹿年とあ子向のうし作刺もまし

世に在月

松風

うらま

あはれいふふふふふふふふふふふ
あまをうみ信ありて、朋友のまらと
うく、あま魚とちねふるまふまふまふ
石しておのもあつり、一伴字をり大
ふふふふふふふふふふふふふふ

たふふふ

あま

綿本

けあういふふふふふふふふふふ

ろく子かあをたせらふまゝし志も
張るくほいふう海子のわなあり
日ふまゝしあさくん神刺百一

たきや内

綿本

花崎

けあしはた甘菜一
くくくくくくくくくくくくくくくく

海ともなを交面白くほいぶう海ハ所の
わいこくくくくくくくくくくくくくく
とらこくくくくくくくくくくくくく

おれし内

まを張

う〜燈

いあ〜る乃中の静い勿神あり
ま〜あ〜もろく〜ま〜あ〜静ありて

らうし九んもがーハやーのせ
とも礼る程もあーあるのあい
さうよふらうきてせ殺れろん
立場ありーらうり洋軒屋ー

系所を丁目左例之浦を日

整夕

とめま

はあうこまさあーらりりまあ出情あ
まん山とのな安ーあまーおまか
さうあーもあーまあーあーあ
せ殺わらああああ切りー
現今之味せんも能るらりーあ

是もわたり接ひも面白

之浦を月

新波

あけを

宗くさせれ付英しく。そんかき
うーなまりたまる海あて信わめ
一伴まられていぬわぬ徳無ふら
そさし毒流のうりどー能るん
秋知りあててんけー面白さある

おぞ
おぞのまね流のきほくきりふり
あしんうづまのほうこのちる流の事
あそあうらんおりーろさるるハ
えりわりー事もあるめい
して英ーさるるはうこさり
いんあかーつるー実と本
終る友の交りーたあ
奥も九んもあしうき

のせいもそふれ終りに終ひとも
ちとちと終ひに減小くはつ
る尾ともつづればのち

雲風

かきとや田

たち花

いさうしそれ付とこちあつて
のちーはりのちあつてか

途中の終ひ押さるのちけさの
んるるるるるるるるるる
終ひともさあつてらん能く
あるれとち切平るるるるの
はひれもそあもまうるるる
及らつてちもさるるるるる
好味ともち小目ふまはるる
評判等

養老

かきとや月

たまふ

いさくしむらゆりあふくくか
おとくもあふくしむらゆりあ
附友のあふくしむらゆりあ
とくしあふくしむらゆりあ
きくやふくしむらゆりあ
いさくしむらゆりあ

あふくしむらゆりあ
あふくしむらゆりあ

皇皇太極

いせや月

初風

いさくしむらゆりあ
せとくしむらゆりあ
あふくしむらゆりあ

ふんふんをさ〜くおんたとちゆり
き〜れん〜けり〜ほひも
お〜り〜さ〜お〜けり〜けり
ありあり〜

二七五

松風

綿糸

〜

さ〜ゆ〜も〜り〜お〜んた
〜お〜ち〜り〜ほ〜も〜り〜けり
ほ〜り〜ほ〜り〜ほ〜り〜

あ〜え

お〜んた

松風

け〜り〜けり〜も〜り〜けり〜
ほ〜り〜ほ〜り〜ほ〜り〜

かきかいていひたてしるはあはれ
らししききあつてはさうと
かありしうさしし作まらぬ
あはれなるりあつてはさうと
あはれしをうそはあはれ

京町並下月右例紙書居内

久

九

はあししあつてはさうと
いしあつてはさうと
一巻の奥あはれ曲あつてはさうと
うさし流中しのりあはれあつて
くさしあつてはさうと
あつてはさうと
あつてはさうと
あつてはさうと

富里大報

紙の巻目

巻を結

けいこうくわん牛のとりりらると結く
せられつさうほうくをさるるを
あててちとやうらりせぬしんもが
しは笑し石ともあつる紙は
せりふきされ朋友の交りもやう
をんしとさあやうあつらういふ

折ひも面白

かきや目

春日野

しんせん

けいこうくわん牛のとりりらると結く
せられつさうほうくをさるるを
あててちとやうらりせぬしんもが
しは笑し石ともあつる紙は
せりふきされ朋友の交りもやう
をんしとさあやうあつらういふ

いさよ面白くもん〜秋あ〜
ききし娘あはれひもおり〜
るもるあ〜てらあり〜と
いふもほぐ〜はさもあ〜
とのおり

松風

かまや内

うら山

けし〜とあま〜
ふ〜ておあ〜
九〜ハさの〜
おとハ好〜
あ〜あ〜
あ〜もよう〜

養老

おれ〜内

仁の〜

けあしこを中一の勢ひ志せんといひ
わらわてはなほもより一巻後まで
いまこころを一件字を門不絶に
あまこころもをくらなくまを好小
して朋友より倍あがりある處を去
せりふるまはく友ふらりりきてとき
了後八日おまゝいさうしお出信く

かみや日

式部

程

けあしこを中一の勢ひ志せんといひ
わらわてはなほもより一巻後まで
いまこころを一件字を門不絶に
あまこころもをくらなくまを好小
して朋友より倍あがりある處を去
せりふるまはく友ふらりりきてとき
了後八日おまゝいさうしお出信く

とていふは、
あまのこころを
いかにいかに
いかにいかに

松風

ちびりて内

あまのこころ

けさうしと申の
かたもよく
まをいかに
面白く
まをいかに
まをいかに

わたりあつても
かたもよく
まをいかに
まをいかに
まをいかに
まをいかに

綿糸

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ
あまのこころ
あまのこころ

とてらんくゆく九うてもありあう
うへにまーるともおまじほひとあ
きもと大切になうし朋友れ更うま
うへにまーるともおまじほひとあ

相いーや也

梅うえ

あまうり

けはうこちあもいさし想いよーい風

かーく西神うはうーくさまうりまーく
とーいさうこつさいさまーあうさしとも
なままうりあうーく身あわり音曲
の面白さハその声かあまーしんあうあ
あまーあまうけなまうりまうてのちあ
いふく感ふたあり中ーあうり

おまーい内

解本

清つ條

けはうこいさし中の糖の風流かして
いさし新々——酒もま——めせとをも
み——し終りば実わりてらんや——く
ある風を去切よるさ——し振りの面白さ
か——らりさ——もよう——

松風

中あかると内

位の内

けはうこいさし中の糖の風流かして

せもようこいさし中の糖の風流かして
——てねと終りば実わりてらんや——く
よ——さうも色及の風流さうりあ——る小
あ——風のとり白——小飯ま——わりて
ねひも面白——

おち——内

鬼彦

しを發

けはうこいさし中の糖の風流かして

まらむゆらぐらて 朋友の更らも能く
 まるに実れとあふゆらぐらに
 まらむゆらぐらて 友らも能く
 面白くもは致のまらぬやうく
 音ふるらりあふらぐら

申あふらぐら

あふらぐら

盛久

けはくぐらあふらぐらて 友らも能く

娘風もむらぐらて 友らも能く
 まらむゆらぐらて 友らも能く
 まらむゆらぐらて 友らも能く
 まらむゆらぐらて 友らも能く
 まらむゆらぐらて 友らも能く

おきぐら

娘風

松風

けはくぐらあふらぐらて 友らも能く

おもて
酒小多んあねもくらさあこ
く
あいつて琴今曲之味さんしと能く
らさあこ一た小舞あわり実さあこ
してあさねとち切よるさあこ
日ふま〜あさう〜あさう〜

中あさる月

さらせ候

あさる

はあ〜いさの中の舞ひ押さるあて
あさ〜とさあもあわりさあさあ
あさ〜とさあ〜あさ〜あさ〜
あせ〜もあせありあ〜あせあ
あさ〜とさあ〜あさ〜あさ〜

あさ〜月

舞

あさ

あさ〜とさあ〜あさ〜あさ〜

幸甚幸甚と云ふ事も
いふ事もいふ事も
古切小き事し朋友の便りも
信る事のよし事ふに
よし事あはれ

中あわや

梅うえ

仁の所

いふ事いふ事いふ事いふ事

初婚見ももり
ういふ事いふ事いふ事
原と古切に事いふ事
いふ事いふ事いふ事

綿本

あき一月

子ちま

いふ事いふ事いふ事いふ事

う〜~~あ~~の六小野おつ〜か縁を級
さげ公むありそあまき〜か
くゆ〜つ〜もはさせん〜
あふ屋とち切ふらま〜し抄ら〜の〜海
新ハまら〜して〜

中あか〜
半たま

ま砂

あ〜の〜つ〜と楊まらねも及〜

ま〜
う〜きたの紙あ〜
と〜たあ〜
老〜らわ〜
〜て朋友の〜
〜り様〜の〜
〜り一様〜
〜曲〜

かへき安小具もあらう人老及の
うらまふまら美福らうらうら
かま〜ハる〜

...

ふあや也

富太鼓

まき志の

けあ〜の件一の転ひう〜志望も
う〜一俵あつめあ〜てらまらうら小

けうたあま左小九う〜とけあ〜
あか〜もみ〜海〜あ〜らまを
〜あ〜座の〜ら也〜結柱ひ小
好味あ〜り〜ら〜

と〜り〜也

か〜り〜

富太鼓

けあ〜の件一の転ひう〜志望も

押立所へ面新・美しく髪後をて
産後面白く九うし・このことよれ
給ひも一・産小具ありあはるは
大切なる所へ入心回すま・思ひか
おしつげ玉を小娘給ふ

こりんを内

馬相好

あは

けいこし是早ようへ・うまう志とやうり
してんをさへく・海ももんまふ
産後小具も控ひに好味をてさ
之は

京所斗目左側山城を内

馬相好

松乃

はあうし顔を色のあへ・さしはあは
そしはあうし・あはかへはあは

よもひのしほの葉——くらくらと能ある風の
しらゆり——うららかな夜に小鼻もちらり
涙かを結ぶる風——わらわらと小鼻の面白——

長修庵内

梅久え

通路

けしきくさやふらつと——ちり——くさきちり
お静か——てふとくらくらとさやみえ

二世安西白く粧ひ小好味あがりて
さくもくた

大うまや

あき久

流石

けしきくさやふらつと——ちり——くさきちり
くさきちり——くさきちり——くさきちり
あき久のくさきちり——くさきちり——くさきちり
けしきくさやふらつと——くさきちり——くさきちり

おのれも面白

大うまや一四

よき哉

さくらんぼ

いさくこいさくさく
あつりこいさくさく
おわくさくさく
あつりもあつりに
おのれのあつり

玉井

あつり

あつり

いさくこいさくさく
あつりもあつりに
おのれのあつり
あつりもあつりに
おのれのあつり

目小ま〜西さうし〜
 此のま〜ま〜
 て市とをせと松凡さ〜
 ま〜

う〜い〜組あや

高砂	極上上吉	老松	極上上吉
盛久	上上吉	舟橋	上上吉
松風	上上吉	津本	極上上吉
羽衣	大上上吉	鳥帽	上上吉

雞内 極上上吉

春卷 上上吉

栗井 大上上吉

梅うえ 上上吉

湯首 上上吉

玉葛 極上上吉

綿本 上上上

富士太鼓 上上上

嫁車 大上上吉

狩く 上上吉

角町角中もんや内かよひの
けりうこま子孫の由世あるをばこひの弾か
ぬるりゆ会なうう好の弾もて出めん

夫古人曰色をうくまはるる

かこひ親仁もは門り入る

うててし少るるこさ中北風流

松君の転ひと見んてはけりさ人の

孫らの依りかきとてはを思ふ

いんや仕業乃身とては

門りてはざんては

さしは社業好もささるる

かーとんらーとんらーかーかーかーかー
たのいーちういーかーかーかーかー
一々の具もけりり 熱^{いせひ}とととととととととと
熱^{いせひ}とととととととととと
ましととととととととととととととと
いまーじ^{いせひ}流^{いせひ}ふて 熱^{いせひ}くまーかーかー
肺^{いせひ}をところうまをわがーかーかー
い^{いせひ}をやぶ家^{いせひ}公^{いせひ}肺^{いせひ}の二つとととと

まーかー神の術乃うありもまーかーかーかー
かーかーかーかーかーかーかーかー
かーかーかーかーかーかーかーかー
かーかーかーかーかーかーかーかー
かーかーかーかーかーかーかーかー

或大畫の詩あるがいに跋ん曰ち

まのちあうこころけいびとつてまう

翠帳紅圍畫表全

あかかんまうもらひんのきそらつてなる

華顏柳髮競妍連

らいつんゆせいのえはさうあつとも

來賓雖有祐成志

きんちゆういさくうとつあふうらるる

原上聊似虎無賢

狐客こ詩し三句さんくとぞとぞぞんんどどしてしていいくくをを出出
不ふ和和華華今きん來らい祐ゆう成せいとと是是
いいとと地ち御ごのの心こころししああ客きやく虎ことと平へい
今いまととららんんははままふふとと我われ
虎こももととむむ形かたちりり狐こももああららむむ
人ひとのの玉たまままりり日ひのの本もとにに唐たう去こがが原げんとと
定さだまましし後うしとと志し原げんととハハああららむむ

一、
 宝曆元年正月吉日刻板
 少珠いせたまをむひ十五いせたま日いせたまして格子の
 門かどよ入いる時ときにいせたまやいせたまないせたまむいせたまなるいせたまむ
 ぢんいせたまハ玉いせたま乃いせたまさいせたまるいせたまふいせたまんいせたま座いせたまをいせたま起いせたまぐ
 こいせたまういせたまくいせたまあいせたまりいせたまや
 宝曆元年正月吉日刻板

一、
 宝曆元年正月吉日刻板
 少珠をむひ十五日して格子の
 門よ入る時にやなむなるむ
 ぢんハ玉乃さるふん座を起ぐ
 こうくありや

一、
 宝曆元年正月吉日刻板

